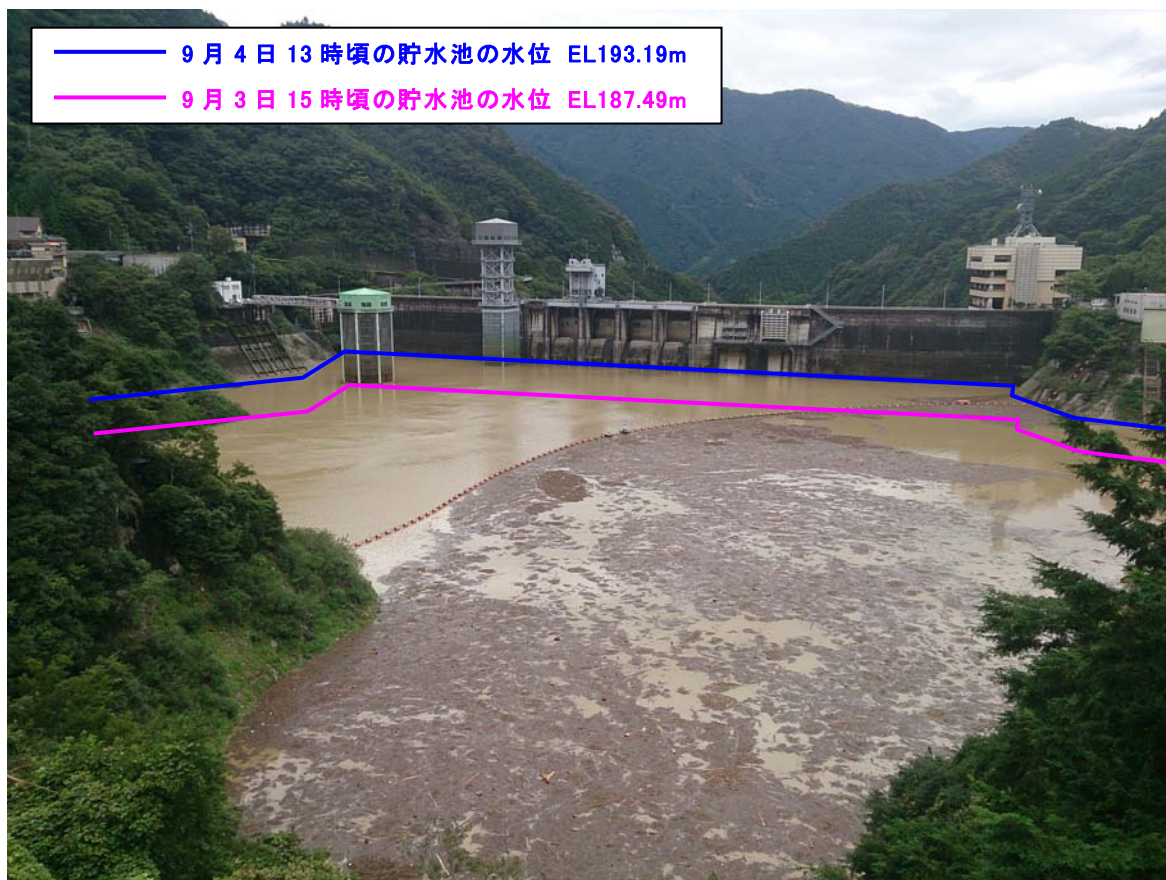


台風17号における大渡ダムの洪水貯留について（速報）

仁淀川流域では、台風17号の接近に伴い、激しい豪雨をもたらしました。
大渡ダムでは平成23年9月洪水以来、約2年ぶりの防災操作となり、洪水貯留を行い、効果をあげました。



【9月4日13時頃の大渡ダム茶霧湖の様子】

<問い合わせ先>

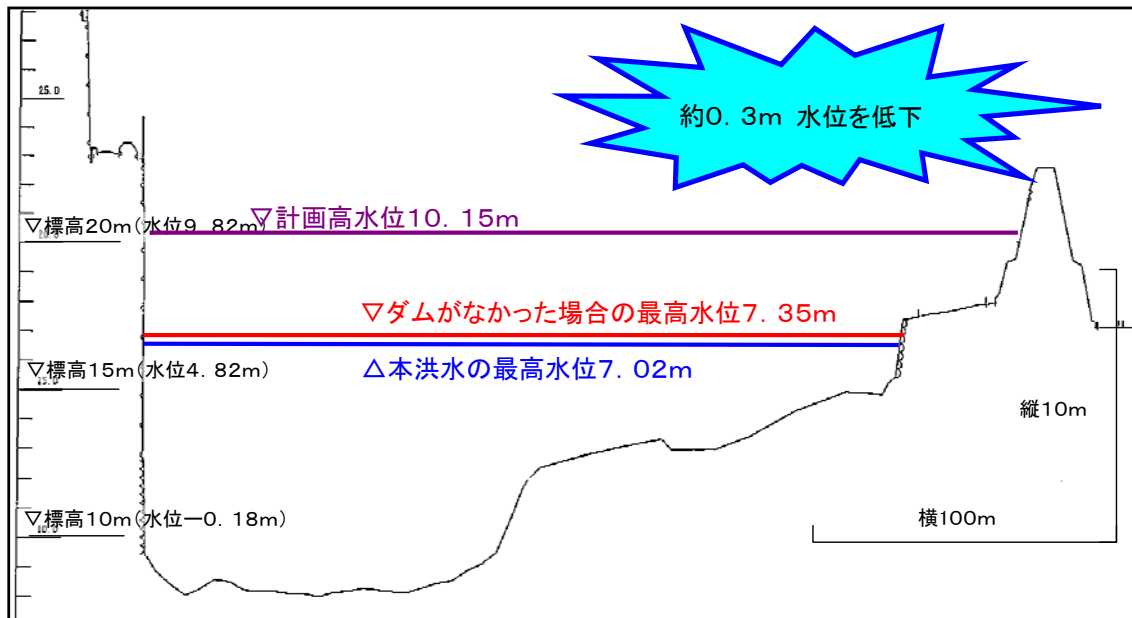
国土交通省 四国地方整備局 大渡ダム管理所
管理所長 赤松 薫（あかまつ かおる）
管理第一係長 藤本 章次（ふじもと しょうじ）
TEL 0889-32-2120

平成25年 台風17号出水における大渡ダムの洪水貯留効果

(流出規模:大渡ダム最大流入量約3,280m³/s)

伊野地点における大渡ダムの洪水貯留効果

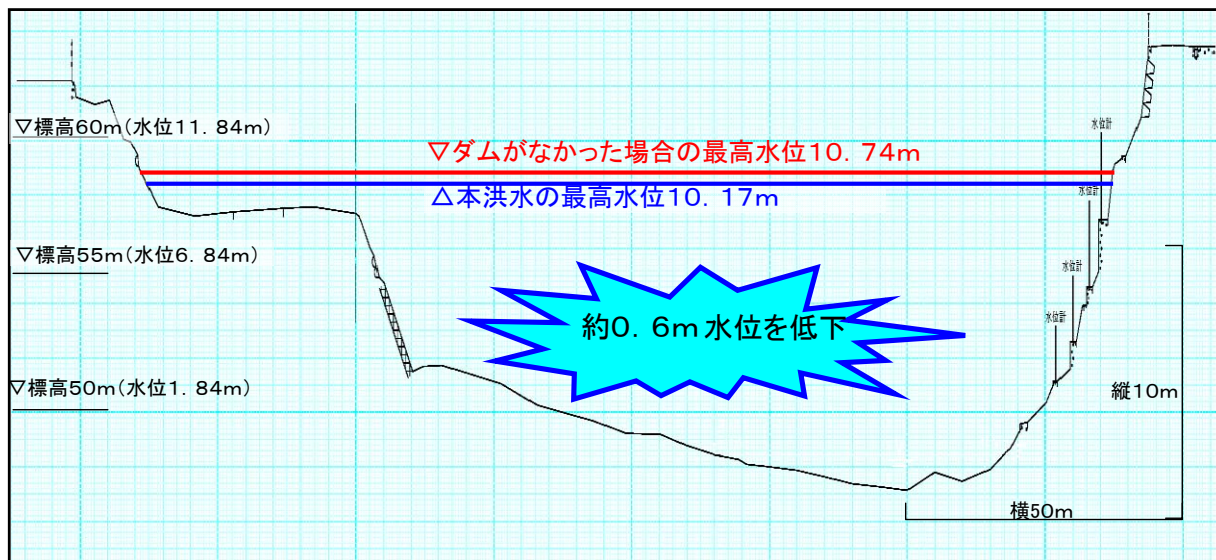
場所:伊野水位観測所(一般国道33号仁淀川橋上流)



※上記の水位低下効果はダムによる洪水貯留が、各地点で発現した場合の推定値です。

越知における大渡ダムの洪水貯留効果

場所:越知水位観測所(越知町役場裏)



※上記の水位低下効果はダムによる洪水貯留が、各地点で発現した場合の推定値です。

1. 経緯

今回の台風17号は9月2日3時に発生し、北東方向に移動し、九州鹿児島県に上陸、その後高知県足摺岬付近で温帯低気圧に変わりました。

台風17号及び前線による豪雨のため、ダムへの流入量が増加し、9月4日9時頃に防災操作による洪水貯留を開始する流量(2,100m³/s)に達したため、ダムの容量を利用し、洪水貯留を開始しました。

2. 上流域の雨量

- 大渡ダム上流域の総雨量 約248mm (降り始め9月3日9時～9月4日13時)
- 上流域最大時間雨量 59.2mm (4日8～9時)

3. 洪水貯留の効果

大渡ダムの洪水貯留により、大渡ダム下流の低い土地の浸水被害を軽減したものと推測されます。

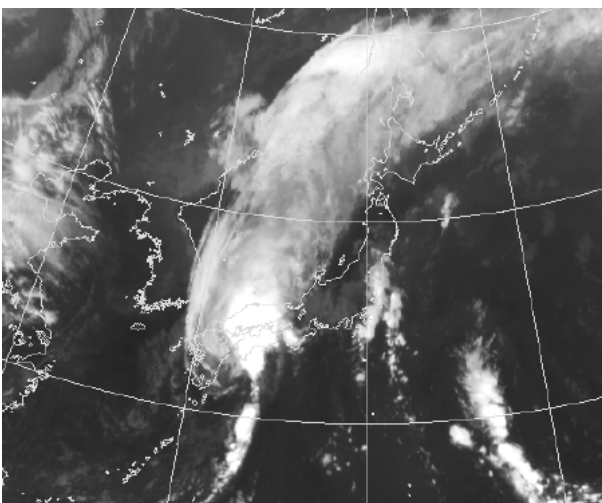
- ①大渡ダムの洪水貯留量 約640m³/s (下記②～③)
- ②大渡ダム最大流入量 約3,280m³/s
- ③大渡ダム最大放流量 約2,640m³/s

4. 大渡ダムの洪水貯留による水位低下効果(推定)

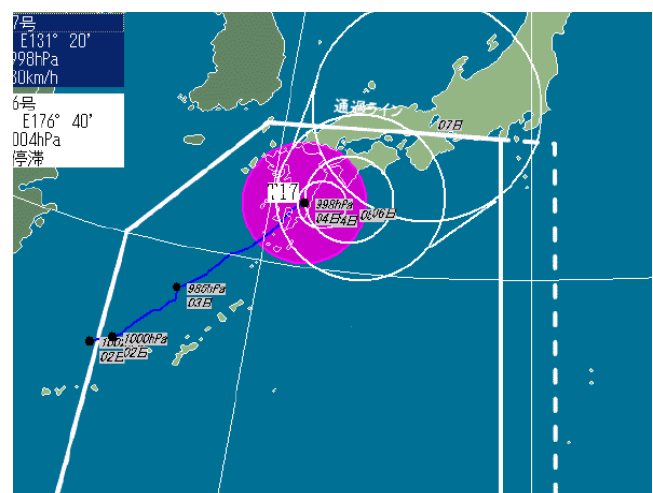
- 越知地点(越知町役場裏) 約0.6m
- 伊野地点(一般国道33号仁淀川橋上流) 約0.3m

※上記の水位低下効果は、最大洪水貯留量が各地点で効果を発揮したものと推定しています。

※今回のデータは速報値であり、変更になる場合があります。



【9月4日9時頃の状況】(気象庁提供)



【台風17号の経路】((財)日本気象協会提供)

台風17号における大渡ダム防災操作(洪水貯留)状況

